

令和6年度 出仲間こども園における自己点検及び自己評価【集計版】

※以上児職員及び未満児職員26名にアンケートをとり、その平均スコアをまとめたものです。

【評価方法】

A：できている B：ほぼできている C：ややできている D：あまりできていない
E：ほとんどできていない

	子どもの権利	評価
1	子どもの権利を守る立場を自覚し、保育・教育の中で十分に配慮している。	A ㊥ C D E
2	子どもや保護者の気持ち・身体を傷つけるような職員の言動や態度、虐待、差別や決めつけなどを行わないための振り返りの機会を設けている	A ㊥ C D E
3	一人ひとりの子どもの行動や欲求に対して、穏やかに対応し、子どもが理解できるような年齢に応じたわかりやすい言葉を選び、応答的に関わっている。	A ㊥ C D E
4	むやみな制止や禁止、子どもの言葉や言動を無視する、不必要な大きな声、否定的・抑圧的・管理的な対応をしていない。	A ㊥ C D E
5	乳幼児の感情、考え、願いを様々な方法（しぐさ、話すなど）で表現できるようにしている。	A ㊥ C D E
6	子どもの名前を呼び捨てにしたり、あだ名をつけたり、子どもの未熟さによる言動や動作を何度もさせ、笑ったり、からかったりしていない。	㊤ B C D E
7	性差への固定的観念などを植え付けないよう、子どもの態度、服装、色、遊び方、役割などについて配慮している。	㊤ B C D E
8	おむつ交換、トイレ、着替え、水あそびの際、全裸で放置されることがないように配慮し、他者の視線を遮るよう工夫している。	㊤ B C D E
	職員に求められる資質	評価
1	出仲間こども園の保育理念・方針や特長（特別の長所）を正しく理解し、それに沿った保育・教育ができる。	A ㊥ C D E
2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解し、日々の保育・教育の実践に活かし、向上心を持って取り組んでいる。	A ㊥ C D E
3	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を考慮して保育・教育をしている。	A ㊥ C D E
4	子どもと関わることを喜び、子どもといっしょに楽しむことができ、積極的に保育・教育に従事している。	A ㊥ C D E
5	乳幼児の発達過程を理解し、子ども一人ひとりの成長・発達に合わせ見通しを持った環境設定をしている。	A ㊥ C D E
6	子どもたちの表面的な行動だけではなく、ある程度の心理状態を読み取ることができる。	A ㊥ C D E
7	日々の保育・教育を定期的に振り返り、自己評価し、保育・教育の質を向上しようとする意欲がある。	A ㊥ C D E

	職員に求められる資質	評価
8	職員間のコミュニケーションを円滑にし、共通理解と協働性を高めようと行動している。	A ㊸ C D E
9	仕事を他の同僚に押しつけることなく、進んで同僚の仕事を援助する姿勢を示している。	㊸ B C D E
10	職場の調和を乱す言動がない。	A ㊸ C D E
11	職場内で私的グループを作ることなく、職場の同僚全員と良好な人間関係を保っている。	A ㊸ C D E
12	日頃から職場内研修や職場外研修、自己研鑽により、保育の専門性を高める努力をしている。	A ㊸ C D E
13	職員会議、研修などを通して、自身の保育・教育の課題や不足している専門知識・技術について、「気づき」の機会を多く持とうとしている。	A ㊸ C D E
14	子どもとの会話は肯定的な言葉を遣うようにし、否定的な言葉はできる限り使わないようにしている。	A ㊸ C D E
15	子どものことやケガ、クラスの出来事などで必要なことは、園長や主任、リーダー、同僚に報告・連絡・相談をしている。	㊸ B C D E
16	園長や主任との間で質問をしたり、意見を交わしたりできるような良好な関係を築いている。	A ㊸ C D E
17	同僚との間で質問をしたり、意見を交わしたりできるような良好な関係を築いている。	A ㊸ C D E
18	同僚のそれぞれの役割とあなたが果たすべき役割を理解している。	㊸ B C D E
19	自分の保育実践について園長や主任からの意見を感情的にならずに受け止めることができる。	㊸ B C D E
20	自分の実践の内容や意図を同僚にわかりやすく説明することができる	A ㊸ C D E
21	研修に参加したり、専門書を読むなどして保育・教育に関わる様々な知識や技能の向上に努めている。	A ㊸ C D E
22	職務上知り得た子どもに関する情報について、たとえ、自分の家族や友人にでも、話さないように心がけている。	A ㊸ C D E
23	保護者とコミュニケーションを十分とり、信頼関係を築くよう、努めている	A ㊸ C D E
24	保護者とは、適切な距離をとり（プライベートなことには立ち入らないなど）、また全保護者と平等に節度を保って接している。	A ㊸ C D E
25	就業規則、服務規律を守ることができる。	㊸ B C D E
26	あなたの欠勤・遅刻・早退の際には、不在の際の準備や事後の確認などについて、責任をもって行っている。	㊸ B C D E
27	接遇、電話対応では、丁寧な言葉遣いと気遣いを配慮し、来園者によい印象を与えることができる。	A ㊸ C D E

	保育環境・保育内容	評価
1	子どもが心地よく過ごすことができるよう、室内の換気、温度、湿度、音、採光に配慮している。	A ㊦ C D E
2	施設内外にかかわらず、死角をつくらないように配慮している。	A ㊦ C D E
3	施設内の掃除が行き届いており、保育室、手洗い場、トイレなどの清潔が保たれ、おもちゃなどの子どもたちが使用する備品類の消毒が行われている。	A ㊦ C D E
4	友だちと好きなことをして落ち着いてあそべる場所や一人でじっくりと楽しむことができる場所、体や心をゆっくりと休めたり、くつろげる空間がある。	A ㊦ C D E
5	外気に触れ、自然を感じ、興味を持って探索する楽しさを十分に味わい、子どもが安心してあそべる安全面に配慮した園庭、公園などが確保されている。	A ㊦ C D E
6	花壇やプランターの植物、生活の中で緑を楽しむことができる工夫など、身近な自然と関わるができる取り組みをしている。	A B ㊦ C D E
7	子どもの生活空間において、遊具の素材・配置の工夫をしている。	A ㊦ C D E
8	身近な自然や素材を生かした保育環境を整え、様々な遊びを豊かに展開して、保育・教育をしている。	A ㊦ C D E
9	机や椅子などは子どもに合った大きさを調える工夫をしている。	A B ㊦ C D E
10	子どもの発達段階に即した玩具・遊具・用具が用意され、子どもが興味・関心を持って遊び、主体的に遊びが展開できるように配慮されている。	A ㊦ C D E
11	子どもがやりたいと思う活動をできる限り保障するために、様々な遊びが用意され、遊びが中断されることなく、また次の機会に続けて行うことができるように配慮している。	A ㊦ C D E
12	登降園時に行う様々な行動が十分に行える動線の配慮がなされている。	A ㊦ C D E
13	開園から閉園までの1日を通して、子どもが落ち着いて過ごせるよう静的活動と動的活動の両方を保障し、時間帯によっては、異年齢で過ごすことも想定して玩具や遊具を整えている。	A ㊦ C D E
14	子どもの発達状況や興味・関心、子どもを取り巻く状況の変化などに即して展開できるよう、職員間で検討しながら保育・教育を進めている。	A ㊦ C D E
15	基本的な生活習慣や態度を身につけることの大切さを理解し、適切な行動がとれるように配慮している。	A ㊦ C D E
16	順番を守るなど子どもが社会的ルールを身につけるような機会を大切にしている。	A ㊦ C D E
17	お話や絵本の読み聞かせのときには、その文の美しさや言葉のリズムのおもしろさを大切にするとともに、あなた自身もその内容を楽しんでいる。	A ㊦ C D E

	保育環境・保育内容	評価
18	子どもが十分に体を動かしてあそべるように工夫している。	A ㊦ C D E
19	ケンカを自分たちで解決できるよう配慮している。	A ㊦ C D E
20	散歩など子どもが地域の人たちに接する機会をつくっている。	A B ㊦ C D E
21	子どもが、自分の意見を言うことができる雰囲気をつくっている。	A ㊦ C D E
22	生活に必要な簡単な文字、記号などに、興味や関心をもつように配慮している。	A ㊦ C D E
23	保育の中で手伝いをするなど、人の役に立つ体験ができるような機会を取り入れている。	A ㊦ C D E
24	子どものイメージが湧き出るように、素材、道具、玩具などを提供するなど工夫している。	A ㊦ C D E
	乳児保育 （1歳未満児） 0歳クラスの保育者は答えて下さい	評価
1	個々の子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態に即して個別の指導計画を作成している。	㊦ B C D E
2	乳児は疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いので、一人ひとりの発育及び発達状態や健康状態について把握し、職員間で連携を図り、適切な対応を行っている。	A B C D E
3	温かい触れ合いの中で、発育に応じて体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにする。	A B C D E
4	離乳食については、家庭と連携をとりながら、進めている。	㊦ B C D E
5	一人ひとりの育ちやその日の体調に合うよう離乳食を工夫している。	㊦ B C D E
6	おむつ交換はやさしく、声をかけながら行っている。	㊦ B C D E
7	一人ひとりのおむつを交換する度に、手洗いを徹底している。	㊦ B C D E
8	一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠がとれるように、静かな空間を確保している。	A B ㊦ C D E
9	喃語にはゆったりやさしく応えている。	㊦ B C D E
10	身体を適度に動かす遊びやリズムを伴った触れ合い遊びを十分にしている。	㊦ B C D E
11	子ども一人ひとりの出生の状況、その後の発育・発達などを細やかに把握している。	A ㊦ C D E
12	子どもが探索意欲を満たして自由に遊べるよう、身のまわりのものについて、十分な点検を行っている。	A B ㊦ C D E

	1歳以上3歳未満児 0・1・2歳クラスの保育者は答えて下さい	評価
1	個々の子どもの生育歴、心身の発達、活動実態に即して個別の指導計画を立てている。	A ㊸ C D E
2	感染症になりやすい時期であるため、体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を行うとともに、職員間で連携を図り、適切な対応を行っている。	㊸ B C D E
3	言葉を獲得して行く時期であることを考慮し、楽しい雰囲気の中で言葉のやりとりをしている。	㊸ B C D E
4	子どもの不安定な表出については受け止め、そうした気持ちから立ち直る経験や感情のコントロールをすることへの気づきになどにつなげていけるように援助している。また、友だちとのかかわりを丁寧に伝えている。	㊸ B C D E
5	基本的な生活習慣の習得にあたっては、急がせることなく、子どもに見通しをもったわかりやすいやり方などを示し、適切な援助をしている。	A ㊸ C D E
6	探索活動が十分行えるよう、事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え、様々なあそびを取り入れている。	A ㊸ C D E
7	様々な人や物を認識できるよう遊びや素材を用意している。 (形、色、大きさ、量)	A B ㊸ D E
8	身近な生き物とのかかわりについては、子どもが命を感じ、生命の尊さに気づく経験につながるようなやりとりをしている。	A B ㊸ D E
9	自我が形成され、子どもが自分の感情や気持ちに気づく時期であるため、自分であろうとする気持ちを尊重し、温かく見守り愛情豊かに、応答的にかかわっている。	㊸ B C D E
10	子どもが自分の感情や気持ちを自信をもって表現できるように受容的にかかわっている。	㊸ B C D E
11	一人ひとりの子どもの気持ちを受容し、共感しながら、子どもとの信頼関係を築いている。	㊸ B C D E
12	絵本を見せたとき、その子の指すものに応えるなど、子どもとのやりとりを楽しんでいる	㊸ B C D E
13	一人ひとりの子どものいつでもやさしく対応できるように努めている。	㊸ B C D E
14	季節や天候に応じて、戸外遊びを行うなどの機会を設けている。	㊸ B C D E
15	室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境は適切な状態に保持している。	A ㊸ C D E

	食事	評価
1	テーブルやいすの高さや大きさ、子どもが扱いやすい食器や食具を準備するなど、食事にふさわしい環境を整えている。	A ㊦ C D E
2	子どもの状態に合わせて量を加減したり、無理やり食べさせたりせず、子どもの気持ちに寄り添いながら食事の介助をしている。	A ㊦ C D E
3	食事を「楽しく おいしく」味わえるように食卓の雰囲気作りを工夫している。	A ㊦ C D E
4	食物アレルギーのある子どもに対しては誤食事故がないよう、職員間で細心の注意をはらっている。	㊦ B C D E
5	アレルギー対応については、医師の指導のもと適切な対応をするとともに、職員間でも子どもの現状を把握し、共通理解と連携を図るようにしている。	㊦ B C D E
6	配膳やおかわり、片付けなど、食事の際の行動がスムーズにできる動線の確保や環境づくりに努めている。	㊦ B C D E
7	食への興味・関心が持てるような取り組みに努めている。	A ㊦ C D E
	健康	評価
1	子どもに対し定期的な（年2回以上）健康診断が行われ、結果を保護者に伝えている。	㊦ B C D E
2	子どもの健康状態を把握し、体調に合わせて過ごすことができるよう配慮している。	A ㊦ C D E
3	子どもの日々の健康観察を行い、子どもの健康状態がいつもとちがう状況にある場合は、その対応をするとともに、保護者に連絡をして、対応の検討を行っている。	A ㊦ C D E
4	感染症が発生したとき、発生の状況を保護者に報告している。	A ㊦ C D E
5	排泄（おむつ交換）・着替えなどの基本的生活習慣は、きれいになった心地よさを感じるよう、ゆったりとやさしく言葉をかけ、次第に自分でできるようになることを意識して援助するなど、一人ひとりの子どもの状況に合わせる工夫をしている。	A ㊦ C D E
6	与薬の依頼を受ける場合は医師の指示に従い、依頼書に基づき行われ、看護師を含め複数の職員で確認を行い、与薬が適正に行われたことを確認することができる仕組みになっている。	㊦ B C D E
7	1日の生活のリズムの中で、子ども自身が休息、午睡の必要性を理解できるように働きかけている。	A ㊦ C D E
8	寝具や個人でもってきている物を他の子と共有したり、不衛生にしていない。	㊦ B C D E
9	早く起きた子や、眠くない子への配慮に努めている	A B ㊦ D E

	安全管理	評価
1	事故（水あそび、園外保育など）や災害、不審者対応などにおける安全確保や事故防止についてリスクや注意すべきことを職員間で話し合っている。	Ⓐ B C D E
2	事故報告やヒヤリハット報告を職員間で情報共有し、再発防止に向けて話し合いを行い、対処に努めている。	A Ⓑ C D E
3	避難訓練、交通安全指導を計画に基づいて行っている。	Ⓐ B C D E
4	施設内で流行している感染症の情報や小さなケガであっても、情報を把握し、保護者に報告している。	A Ⓑ C D E
5	午睡の際は、一人ひとりの寝具が用意され、睡眠チェックを行い、うつぶせで寝ている時は、体位を変えるなど、乳幼児突然死症候群（SIDS）防止を行っている。また子どもの顔色や小さな変化も見逃さないようにしている。	A Ⓑ C D E
6	遊具の安全点検、施設内外の設備、備品などを含む保育環境の安全点検を定期的に行い、必要に応じ改善を行っている。	Ⓐ B C D E
7	園の備品（室内のおもちゃ、家具など）を責任をもって管理し、大切にしている。	A Ⓑ C D E
8	食事の際には、スープやお茶などで喉を潤してから食べさせたり、口の中に食べ物が残っていないか、詰め込みすぎではないかなどの配慮をしながら食事の援助や見守りを行っている。	A Ⓑ C D E
9	園外保育を行う際には、場所の選定に配慮し、危険箇所の予測や不審者の対策などを十分に行い、緊急時の連絡体制を理解している。	Ⓐ B C D E
10	その日の子どもの様子や活動内容における安全管理について、職員同士で事前の確認、下準備などを行うとともに、子どもの様子を予測し 職員同士が声を掛け合ったり、アイコンタクトをとりながら、保育を行っている。	A Ⓑ C D E
	子育て支援	評価
1	保育参加、園だより、クラスだより、保健だよりなどを活用し、保育方針や日々の保育の意図、子どもの園での様子を保護者に伝えることで、保護者との相互理解や個別支援を図ることができるようにしている。	A Ⓑ C D E
2	登降園時間の会話や連絡帳、日々のコミュニケーション、行事など、あらゆる機会を通じて、保育・教育の意図、こどもの状況などを保護者と会話するよう心がけている。	A Ⓑ C D E
3	保護者との信頼関係を築きながら、育児不安や心配事を安心して話せる存在になるように、心がけている。	A Ⓑ C D E
4	子どもの体調、表情、ケガ、清潔面、情緒面などを観察し、虐待の恐れがある子どもの早期発見に努めている。	A Ⓑ C D E
5	虐待を受けていると疑われる子どもについての情報を得たときには、速やかに園長に報告する体制を理解している。	Ⓐ B C D E

6	地域の住民や関係機関との連携	評価
1	園の周辺の住民と良好な関係を築けるよう、日常的な挨拶などを心がけている。	Ⓐ B C D E
2	実習生を受け入れるときには、意義や方針を理解し、指導的立場にあることを意識している。	Ⓐ B C D E
3	園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを理解している。	A Ⓑ C D E
4	子どもの医療や、子育て相談などについて連携する機関の機能について理解するよう努めている。(ウエルパル、アイパル、医療機関、支援施設、児童相談所など)	A Ⓑ C D E

自分自身の「ここがすごい」「努力している」「課題点」「改善が必要だ」など・・・を記述してください。(保育・教育に関することであれば何でも構いません)
・子どもの成長と発達に合ったおもちゃを準備して、自分で遊びを選べるように、そこから自主性を育めるようになることを目標に保育に心がけました。その中で、人的環境が子どもに与える影響がとても大きいことを学びました。 ・保育者の連携がとれて、相互に助け合っていける関係になればクラスの日課もスムーズに流れ、子ども達が楽しく安心して過ごせることが分かったので、今後はこの点を課題として取り組んでいきたいと思う。 ・体調を崩すことなく保育ができているところはすごいと感じました。 ・2階スタッフの連携やチームワークの良さが、次は園全体へと広がり、つながりがより強固になれば良いと思います。 ・保育の悩みを相談し共有できる仲間がいることに感謝しています。心強いです。 ・若い先生達が意見を出し合い、企画運営ができる場をできるだけ設け、応援できる体制を整えれば良いと思います。